



外国人市民と共に生きるまち



平成11(1999)年

宝塚市

## 発刊にあたって

本市には平成10(1998)年12月末現在42ヵ国、約3,500人の外国籍市民が生活しています。市民の約60人に1人が外国籍ということになります。このような社会では、異なる文化・歴史を持った在日外国人とのふれあいと連帯、そして、共に豊かに生きる社会を築くことが一層求められているといえます。

阪神・淡路大震災時には、被災した地域の人たちが互いに助け合いました。その中には、日本人と外国人が協力する姿も見られました。そして、私たちは国籍、文化、生活習慣の違う者同士が助け合い、共に生きることの大切さを学びました。

この冊子では、私たちにとって最も身近な外国人市民である在日韓国・朝鮮人を中心に取り上げました。本市に住んでいる外国人の中では、韓国・朝鮮人が最も多く、外国籍市民の8割に当たる約2,800人が市民生活を営んでいます。日本の隣国であり、歴史的に最も長いつきあいをもつ韓国・朝鮮人との関係を考えることは、ほかの外国人たちとの関係を考えるいくうえでも大切なことです。

21世紀が真に国際化した社会になるよう、さまざまな機会を通じ、また日々の生活の中で、私たちは外国人市民への理解を深め、共に豊かに生きる社会を築いていきましょう。

平成11(1999)年3月

宝塚市長

正司 泰一郎



## CONTENTS

### 目次

発刊にあたって	宝塚市長 正司 泰一郎	1
宝塚市の基礎を築いた朝鮮人		2
日本と朝鮮の歴史的関係		4
在日コリアンの足跡		6
宝塚の外国人市民		8
在日コリアンを理解するために		10
共に生きる社会		12
イラストマップ		13
宝塚市「人権尊重都市宣言」宣言文		

#### ■表題解説

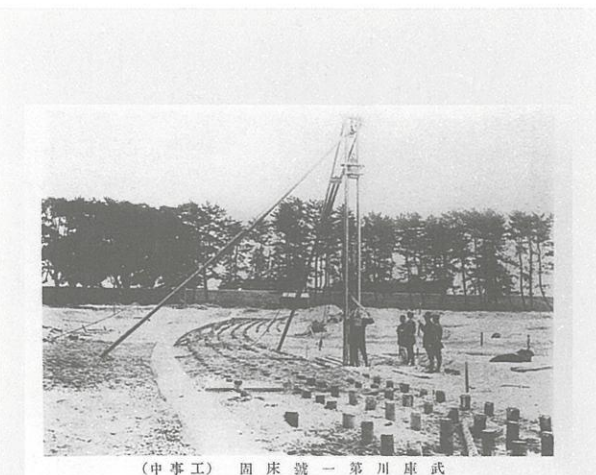
### 우리고장

우리 코чанは、私たちのまちのことで、「私たちのまち、たからづか」となります。

#### ■表紙写真

宝塚市のシンボルゾーン「花のみち」は、昔の武庫川の堤防あです。花のみちが堤防の役割を果たしていたころ、このあたり一帯はしばしば武庫川の氾濫に悩まされていました。その氾濫を防止するため、大正9(1920)年から8年に及ぶ改修工事があり、大勢の朝鮮人が従事し、宝塚市の繁栄の基礎に貢献しました。

# 宝塚市の基礎を築いた朝鮮人



●武庫川第一期工事床固作業  
大正9(1920)年～12(1923)年。第二期工事は、大正12(1923)年～昭和3(1928)年におこなわれた。

写真提供 チョン・ホンヨン 鄭・鴻永さん

宝塚市の交通では、JR福知山線(もとの「阪鶴鉄道」)の存在は大きいといえますが、その敷設工事後の改良・補修工事にも朝鮮人労働者がかかりました。

現在は新線開通とともに廃線となった部分(旧「生瀬」「武田尾」間の武庫川ぞいに走る区間)はトンネルが多く、難工事<sup>※2</sup>でした。



●6号トンネル  
旧武田尾駅から、3つ目のトンネルが6号トンネル。難工事区間の一つ。この近所でダイナマイト爆発事故があった。トンネルの上の方に殉難者の碑がある。また、6号トンネルの生瀬側を出たところに、神戸上水千刈貯水池からの導水管が川を渡っている。

※1武庫川改修工事  
朝鮮総督府政務総監(前兵庫県知事)であった有吉忠一は、「この工事は朝鮮人の力で出来上がったといっても過言ではない」と、大正一二(一九二二)年の第一期工事の竣工式でのべ、そのあと朝鮮人の現場責任者が表彰されました(毎日新聞)。作業員のべ六五万人中二〇万人が朝鮮人労働者だったと西宮公営所長が報告しています(神戸新聞)。  
二期工事の竣工は昭和三(一九二八)年でした。

※2難工事と事故

旧国鉄に移管されてからの福知山線改良工事の一つとして、大正一二(一九二二)年に造られた新三号トンネルは難工事<sup>※2</sup>で、三一メートル掘るのに二年かかったといわれています。ここでも朝鮮人労働者が動員されました。  
六号トンネル付近の工事現場では、氷結したダイナマイトをたき火で乾燥させようとして爆発事故が起こりました。二名死亡、三名重軽傷の犠牲者は、朝鮮人労働者とその家族でした。

この廃線区間は、鐵路が撤去されただけで、溪谷の風情はのこされています。その付近には、鉄道工事に従事した朝鮮人労働者の飯場跡<sup>※3</sup>、事故現場、慰霊碑<sup>※4</sup>などがありますが、あまり知られていません。



●松の切り株

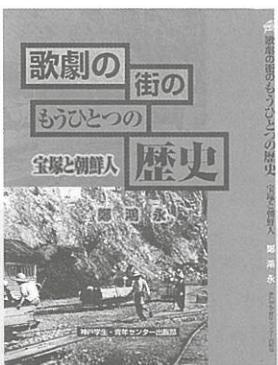
この松の切り株は、現在の小浜3丁目水道局小浜浄水場前の路上にある。明治30(1897)年の武庫川氾濫の被害にあった。その時は、この松のある場所が土砂で覆われたことが、古い絵図面に残されている。

宝塚市域が、この地域をはじめとして、いま氾濫と無縁に生活できているのは、武庫川改修事業と、それに従事した人たちの苦勞があったからである。



●福知山線敷設工事殉難者碑  
西谷地区に昭和54(1979)年に建立された。

また、神戸市に上水道を供給している千刈貯水池からの導水隧道工事<sup>※5</sup>にも、多くの朝鮮人労働者が従事しました。明治四三(一九一〇)年の「韓国併合」後、わずか四五年の時期に朝鮮人労働者が現宝塚市域で、都市生活の基礎を築く工事をしていったのです。



歴史の記録のはざまにある資料や、当事者や子孫、地区の古老などからの聞き取りなどの苦勞の末にまとめられた。表題のとおり、宝塚のもう一つの歴史である。宝塚に刻んだ朝鮮人の足跡をたどる、すぐれた労作。  
鄭鴻永『歌劇の街のもうひとつの歴史』—宝塚と朝鮮人—  
神戸学生青年センター平成9(1997)年刊

※3朝鮮人飯場跡  
生瀬、武田尾間で五箇所の飯場があったといわれています。旧武田尾駅前の温泉橋を渡った河原にもあったそうです。

※4工事犠牲者の慰霊碑

阪鶴鉄道開通八〇周年を記念して、昭和五四(一九七九)年地元「西谷地区」の青年団が中心になり、この地に、「福知山線敷設工事殉難者の碑」が建てられました。碑の下に二〇人の犠牲者の名前が刻まれています。そこには朝鮮人犠牲者の名前はありません。それは、昭和五一(一九七六)年発行の「宝塚市史」に載せられた明治三〇(一九一七)年(一九七九)年の犠牲者二〇人の名前によったためです。

※5千刈導水隧道工事

大正三(一九一四)～五(一九一五)年は、膨張する神戸市の水源を確保するための工事が、ピークに達していました。千刈と生瀬の間に導水隧道(トンネル)が二本掘られたのもこの時期でした。稜線をくぐり、溪谷をわたる難工事だったため事故も多く起こりました。旧西谷村発行の「埋葬認許證」の中には、事故で亡くなったとみられる朝鮮人労働者のものも含まれています。

# 日本と朝鮮の歴史的関係



●百済王神社  
大阪府枚方市にある百済王神社は、百済王神を祭神とする神社で、交野郡一帯に展開した百済王一族の氏神。東側の史跡百済寺跡とともに、古代渡来人の根拠地だった。奈良時代に活躍した百済王敬福も、この一族。

中世には、日本の倭寇<sup>わうこく</sup>が朝鮮や中国の沿岸を荒らししました。倭寇の取り締りが強化されると、朝鮮との貿易が盛んになりましたが、秀吉が朝鮮を侵攻したことで、悪化しました。この侵攻は、朝鮮王朝の李舜臣（イ・スンシン）将軍が率いる水軍の活躍や明の援軍によって、秀吉軍が壊滅状態になり、義兵<sup>ぎへい</sup>の活躍もあって敗色が明白になったところ、秀吉の死をきっかけに派遣大名が撤退することで終息しました。

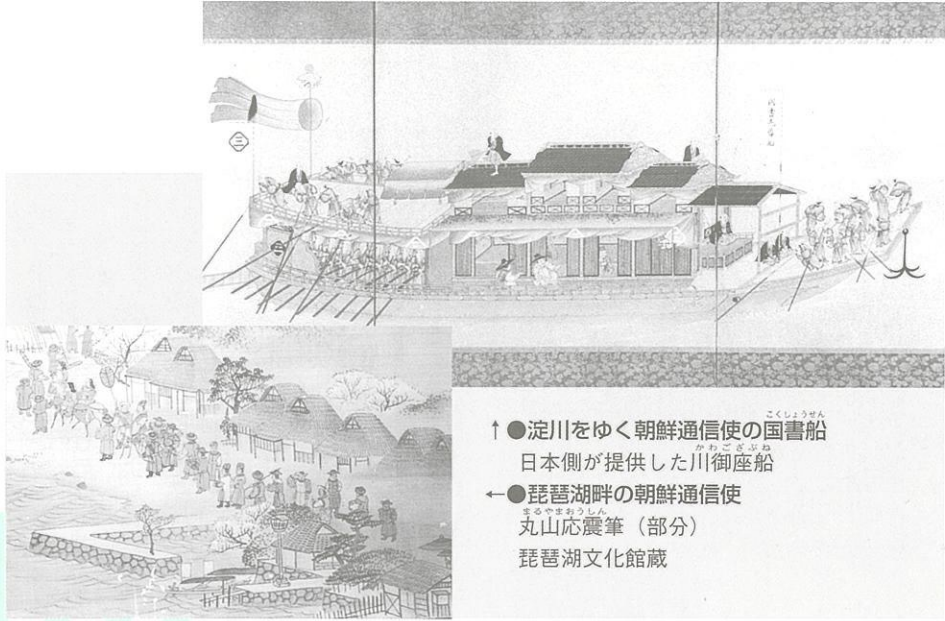


●李舜臣将軍  
李舜臣将軍は、朝鮮王朝の武將。壬辰倭乱（1592年イムジンウェラン＝文祿の役）の時に「亀甲船」という装甲船を造って、火砲で日本水軍を壊滅させた。丁酉倭乱（1597年チョンニウウェラン＝慶長の役）でも、珍島の海戦で活躍するが慶尚南道の露梁海戦で銃弾にたおれて戦死した。現在、「救国英雄」として各地に銅像がある。この写真はソウル市内のもの。

仏教も百済の国から伝えられるなど、朝鮮は古代の日本文化に大きな影響を及ぼしました。それ以前から鉄や、養蚕の技術を朝鮮からの渡来人<sup>わらいじん</sup>が伝えたことは、よく知られています。日本各地に、渡来人に関連するものが残っています。宝塚市の伊和志津神社や「蔵人」「武庫」などの地名も、その一つといわれています。

江戸幕府の外交的課題は、朝鮮との国交回復で、対馬藩に命じて折衝させました。朝鮮貿易<sup>えいぎ</sup>がとどえたことは、対馬藩の死活問題でしたし、朝鮮側にも連行された同胞を救出する目的があったので、ついに国交の回復ができました。

朝鮮通信使は江戸幕府の将軍の代替わりご



↑●淀川をゆく朝鮮通信使の国書船  
日本側が提供した川御座船  
←●琵琶湖畔の朝鮮通信使  
丸山応震筆（部分）  
琵琶湖文化館蔵

とに、一二回来日しています。数百人の一行が瀬戸内海を六隻の大船で大坂まで。淀までは日本の「川御座船」で淀川を逆上り、その後陸路で江戸まで行きました。大坂では、貸しむしる屋が出るほどの見物人があふれたといいますが、宿泊には寺院などがあてられました。そこには多くの日本人が教えを乞いにおとずれ、漢文の筆談で会話しました。江戸時代は朱子学<sup>しゆしぎく</sup>が盛んでしたが、朝鮮は朱子学の先進地域だったからです。しかし、日本からの使節は、対馬藩がとりしきり、それも釜山（プサン）までしか入れなかったのは、秀吉の侵略が原因でした。



●雨森芳洲画像  
滋賀県伊香郡高月町「東アジア交流ハウス」蔵

江戸時代の善隣友好<sup>ぜんりんゆうこう</sup>の関係は踏みについたのは、明治政府の武力を背景にした外交政策です。欧米との不平等条約で現に苦しんでいた日本が、朝鮮を開国させ不利な不平等条約を強制しました。

●1 渡来人  
明治以後の歴史は、「帰化人<sup>きっかじん</sup>」という用語を用いました。「帰化」とは、王朝の徳を慕って渡来してきたもの、という中華思想に基づく用語です。しかし、まだ国の形態ができていない時期もふくめ、「帰化人」とすることはよくないことから、教科書もすべて「渡来人」と表現されるようになっていきます。

●2 倭寇  
一四世紀頃から一六世紀にかけて、吉岐、対馬、松浦地方から、朝鮮・中国に行つて海賊行為を行った集団がありました。対馬を例にとれば、米の自給ができないことが、倭寇になった原因でした。朝鮮王朝は根拠地対馬を攻め（応永の外寇）毎年米や豆を与え、朝鮮貿易の権利を認めることで、対馬島主宗氏に倭寇の取り締まりをさせました。

●3 義兵  
朝鮮王朝は文人国家であり、最小限の武力しか持っていないで済んでいました。戦国時代の中で戦に慣れた秀吉軍に敗退した正規軍に対し、地方土豪層を中心に自衛する農民兵や、義備軍などが立ち上がりましたが、これらの人びとは「義兵」と呼ばれています。日本の武將にしがみついで一緒に入水した女性（論介）など、多くの民間英雄が活躍し、秀吉軍を敗退させました。

●4 朝鮮貿易  
対馬藩宗氏は国交回復後、釜山の「倭館」（長崎出島と同様、対馬藩関係者はここから内陸には入れず、ここに駐留した）に代官を派遣して外交や貿易を再開しました。江戸時代の海外貿易はオランダ、中国だけが知られていますが、朝鮮貿易が大きかったことはあまり知られていません。

●5 朱子学  
朝鮮朱子学は、藤原惺窩、林羅山に影響を与えました。また、木下順庵の弟子である雨森芳洲は近江の人で、対馬藩に仕え朝鮮語を学び、外交官として両国の親善に寄与しました。滋賀県伊香郡高月町にある「芳洲庵」はいま、「東アジア交流ハウス」として公開されています。



『きっとわかりあえるよ』より  
(社)大阪国際理解教育研究センター刊



# 在日コリアン※の足跡

日本が韓国を併合した明治四三（一九一〇）年から四年しかたっていない時期に、神戸水道千刈導水隧道建設工事に従事し、犠牲になった朝鮮人三人の埋葬認許證が発見されました。かなり早い時期から朝鮮人が宝塚市内で生活していたことがわかります。その後トンネル工事などの鉄道施設や、武庫川の改修工事などに従事していました。

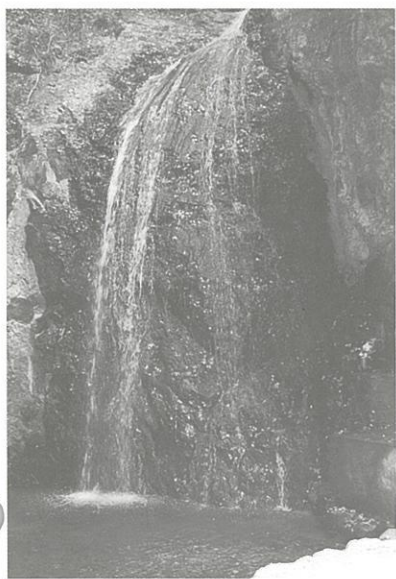


●朝鮮総督府  
明治43（1910）年「韓国併合」のあと、36年間植民地支配がおこなわれた。植民地支配の象徴とされたこの建物は、王宮であった景福宮の正面に建てられていた。平成8（1996）年撤去され、尖塔部は独立記念館に保存されている。写真は昭和8（1933）年頃の朝鮮総督府。



●日清戦争の指令本部  
明治27（1894）年の日清戦争は、朝鮮をめぐる両国の主導権争いであった。写真は、戦場となったピョンヤン付近の寺院を接収し指令本部としたもの。このあと明治37（1904）年の日露戦争にも勝利した日本は、韓国への発言を強め三次にわたる日韓協約をへて、明治43（1910）年の「韓国併合条約」に至り、植民地支配がはじまった。

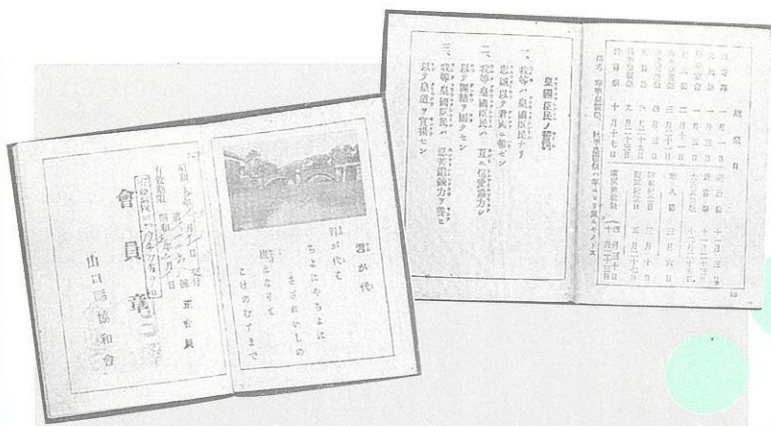
大正九（一九二〇）年に行われた国勢調査では、塩瀬で三人の朝鮮人が住んでいたとされていますが、実数が多かったことは、前年の新聞に、生瀬硝子製造会社で一〇人の朝鮮人「職工」がいたことが、報じられていることでも明らかです。



●最明寺滝

昭和八（一九三三）年の新聞に、今の市役所付近の武庫川廃川敷に五二戸二二三人の朝鮮人が住んでいたことが記されています。鄭鴻永さん（市内在住で「歌劇の街のもうひとつの歴史」の著者）が一〇年ほど前に五人の在日一世の方から聞かれた話では、多くの方が慶尚北道出身者でした。宝塚の在日コリアンのルーツについては、これからの調査に待たねばなりません。

在日コリアンの心の支えになったのは、最明寺滝周辺に多い朝鮮寺（韓寺）※2でした。



●協和会会員章

昭和11（1936）年、厚生省が各府県に協和会をつくり、内務省、警察も関与し、「内鮮一体」をかかげ日本人への同化政策をすすめた。手帳形式の会員証（写真）を携帯させたが、会員証には君が代、皇国臣民の誓詞のほか、協和会主催の会合等の出席記録などの記入欄もあった。手帳による朝鮮人管理は、日本敗戦後外国人登録証として継承されている。

アジア太平洋戦争中「内鮮一体」をかかげ、「皇民化政策」によって朝鮮人を「日本臣民」（天皇の国民）にしようとした政府は、各地に協和会を組織し警察を中心に朝鮮人を管理する組織をつくりました。昭和一三（一九三八）年宝塚にも宝塚協和会ができ、会員は協和会「会員章」（手帳）※3を持たされました。



●正教寺の遺骨

正教寺は大阪府泉南郡岬町多奈川にある。敗戦前海軍基地と工場をトンネルで結ぶ軍事施設が造られ、強制連行されたその工事にかかわって死亡した朝鮮人労働者の記録が、「過去帳」の中にある。引き取り手のない（遺族不明）の、朝鮮人遺骨四体も納骨堂に祀られている。

過去帳

旧良元村は朝鮮人多住地域（昭和一二年へ一九三七）年で七〇五人）でしたが、昭和一七（一九四二）年の選挙で協和会指導員でもあった二人の朝鮮人が村会議員に当選しています。そして良元村の朝鮮人は、軍需工場である東洋ペーリングと川西航空機宝塚工場の建設に働かされました。名機といわれた海軍の戦闘機「紫電改」の部品を作る工場だったため、米軍の空襲も激しく朝鮮人犠牲者も出ましたが、詳細はわかりません。

※在日コリアンという用語の説明は、一ページにあります。

※1「神戸新聞」の「居直り朝鮮人、立退きを強制—西宮土木出張所態度硬化—」という記事に出てくる数字。武庫川改修工事で働いていた朝鮮人は、工事が終わっても行くところがなく、ここを拠点に豚や鶏を飼った人を含め、この場所に集住せざるをえない差別的状況に置かれたのです。この土地を分割払いで自分のものにするのができたのは、戦後になってからでした。昭和一二（一九三七）年には、旧良元村に七〇五人、旧小浜村に三〇二人の朝鮮人が住んでいたことが、当時の兵庫県社会課の調査数値で明らかにされています。

※2朝鮮寺

最明寺滝は昔から「行場」として知られています。朝鮮古来の信仰を残している朝鮮寺（韓寺）では、「滝行」は欠かせないもので、最明寺滝周辺が絶好の場所でした。除災招福や、治病、死者交霊などを祈る宗教行事もあり、盆、正月、命日などに家族でお参りにくる在日コリアンもいます。戦前は、いずれは故郷の地に遺骨を埋葬する願望があったのですが、果たせない場合が多かったのです。

最明寺滝周辺には、大井寺、宝教寺、普徳院のほか三つの寺があり、長い間宝塚市に根付いた在日コリアンの心のよりどころとなっていました。現在は廃寺になった所もあります。

※3「協和会会員章」

- 皇国臣民の誓詞
- 一、我等ハ皇国臣民ナリ忠誠以テ君国ニ報ゼン
  - 二、我等皇国臣民ハ 互ニ親愛協力シ以テ團結ヲ固クセン
  - 三、我等皇国臣民ハ 忍苦鍛練力ヲ養ヒ以テ皇道ヲ宣揚セン

会員章に印刷されているこの誓詞は、全ての成年朝鮮人が暗唱することを義務づけられ、行事などのときに唱和させられました。別に、児童用もあり学校の朝礼で斉唱させられました。

皇国臣民の誓詞（児童用）

- 一、私共ハ大日本帝国臣民デアリマス
- 二、私共ハ心を合ワセテ 天皇陛下ニ忠義ヲ尽クシマス
- 三、私共ハ忍苦鍛練シテ 立派ナ強い国民トナリマス

# 宝塚の外国人市民

二〇万都市宝塚（人口二〇八、四八一人）には、三、五三三人の外国籍市民が生活しています。そのうち二、七九六人が韓国・朝鮮籍市民で、ほか中国籍二八〇人、ブラジル籍一六一人、その他二九六人、となっています。公立の小・中学校には韓国・朝鮮籍一七九人の在籍があります。そのほかに、日本国籍を取得した外国人もいます。（数値は平成一〇（一九九八）年二月末現在）

外国籍市民の約八〇％が韓国・朝鮮籍で、そのほとんどが日本で生まれた在日一〇五世だといふことは、それだけ地元根付いた存在だといふことができます。



●宝塚市外国人市民文化交流協会  
平成10（1998）年6月に開かれた第三回総会の「食文化交流会」として、前回の韓国料理「ちぢみ」に続き、「ブラジル料理」の体験学習をした。写真中央は、同会相談役 金禮坤氏。



●復興祭「宝塚フェニックスまつり」  
宝塚市民フェスティバル協会主催の復興祭が、宝塚（阪神）競馬場を会場におこなわれた。写真はブチエ（扇）の舞。

宝塚市では、このような外国人市民と共に生きる「共生社会」の実現をめざし、相互の文化理解を深める場として、公民館事業の「宝塚カレッジ」に「日本と朝鮮・韓国交流史コース」を設けたり、「たからづか民族まつり」<sup>※2</sup>を後援しています。また、女性の市政参加を目的とした「女性ボード」に在日コリアン女性も参加しました。宝塚市国際交流協会でも「宝塚の韓国・朝鮮歴史展」<sup>※3</sup>などの異文化相互理解事業<sup>※4</sup>を開催しています。

市民グループとしては、「宝塚市外国人市民文化交流協会」<sup>※5</sup>が、各種のイベントに参加・協力しています。韓国・朝鮮の文学を翻訳する「北十字星文学の会」、コーラスグループ「ノレナグネ」（歌の旅人）などの市民交流も盛んにおこなわれています。また、民団宝塚支部では、日本人も参加して「韓国語教室」「舞踊教



●在日コリアン高齢者たちの識字学級  
平成11（1999）年のある冬の日の識字学級、この日は年賀ハガキの話もあり、意欲的な取り組みが、ボランティア講師によっておこなわれていた。

室」などもおこなわれています。

民族学校としては、昭和二一（一九四六）年に「国語（朝鮮語）講習所」としてつくられ、昭和二三（一九四八）年に朝鮮宝塚中央初等学院となった、現在の宝塚朝鮮初級学校があります。昭和二三（一九四八）年GHQと警察が、民族学校閉鎖を目的に出動した「阪神教育闘争」



北十字星文学の会（韓丘庸代表）は、在日コリアンと日本人の有志の会で、韓国・朝鮮の文学を翻訳・紹介することで友好を深めようとする会。韓国の5年生教科書の安重根の紹介や、随筆、詩、紀行などが盛り込まれた同人誌。

のときにも、朝鮮人が学校に泊まり込み守り抜いた学校です。

また、植民地支配下で苛酷な労働に従事した結果、日本語やハングルの読み書きができないまま放置された在日コリアンを対象にした識字学級<sup>※6</sup>も開かれています。

日本の学校に子どもを通わせている在日コリアンの保護者たちは、「兵庫県在日外国人保護者の会」を結成し活動しています。この会も参加している全国在日コリアン保護者会は、「第一〇回全国生涯学習フェスティバル・まなびピア兵庫'98」に参加しました。その中で、シンポジウム「二世紀在日コリアンの子どもたちは？」を開催しました。そこでは違いを認め、尊重しながら、共に生きる教育内容を創造するため、真剣な討議がおこなわれました。

※1宝塚カレッジ  
シニア世代の生涯学習の場として設置された八回一〇コースで展開される公民館講座です。

平成一〇（一九九八）年度はその一つに「日本と朝鮮・韓国交流史コース」が、設けられ、古代から中世、朝鮮通信使を経て、近・現代に至る交流の歴史を学ぶ講座が開催されました。

※2たからづか民族まつり

平成九（一九九七）年一〇月市立光明小学校で第一回が、市立良元小学校を舞台に、平成一〇（一九九八）年一〇月第二回が実施されました。宝塚市、宝塚市教育委員会などの後援で、市民参加型のイベントでした。日本・韓国・朝鮮・沖縄の民族楽器の演奏や歌舞、アジア・南米の料理体験、民族衣装や楽器にふれたり、遊びを体験したり、おとも子どもも楽しく過ごした一日となりました。在日外国人教育講座として、平成一一（一九九九）年二月、映画「在日」も上映されました。

※3宝塚の韓国・朝鮮歴史展

宝塚の発展に、韓国・朝鮮の人びとがどうかわったのか。婚礼衣装や、代表的芸術であるマダン劇の仮面など韓国・朝鮮の文化を通して異文化体験をし、相互理解と友好を深める展示会が、平成一〇（一九九八）年八月に市立国際文化センターで開催されました。

※4異文化相互理解事業

宝塚市、宝塚市国際交流協会主催。宝塚市外国人市民文化交流協会の協力で実施されました。写真等による「宝塚の韓国・朝鮮歴史展」映画「在日」鑑賞会、旅行会話「朝鮮語講座」、「韓国・朝鮮の食文化紹介」など、多彩な行事が平成一〇（一九九八）年に展開されました。

※5宝塚市外国人市民文化交流協会

主に宝塚市内の外国人市民を構成員として、平成八（一九九六）年に設立されました。映画観賞、講演会、食文化体験交流会、文化交流会などを通じて、市民に異文化体験と相互理解・交流・共生の大切さを理解してもらおう事業を展開しています。

※6識字学級

平成七（一九九五）年、ある在日コリアンのハルモニ（おばあちゃん）の希望に添えるかたちで、ボランティア活動としてはじまりました。毎週水曜日夜の七時から八時半まで、市立宝塚中学校を会場に行われています。

# 在日コリアンを理解するために

## 在日コリアンの11の名称

本名(日本名)(通称名)

日本が『韓国併合』で植民地支配をしていく中で、「創氏改名」を実施しました。本名を日本式氏名に変えたことと理解する人が多いのですが、それだけではありません。「創氏」という部分を見て下さい。「改氏」ではありません。韓国・朝鮮の社会では、「姓は一生変わらない」と夫婦別姓であるうえに、「本貫(氏の発祥地)」を同じにする同姓同士は結婚できない」「姓の違う養子はとれない」という原則がありました。したがって同じ家で祖母や母の姓は違ったのです。つまり氏制度ではなかったのですが、そこに父系の姓に統一する氏制度を導入することでもあったのです。「改名」とは下の名前を日本人らしくかえることを意味します。

日本敗戦のあと、朝鮮半島の南北では、姓名を法律で復帰させたのですが、日本にいたコリアンは創氏改名で付けた日本名(通称名)を引き続き使いました。それは「差別」があったからです。現在でも在日コリアンが、本名を名のりづらい現実があるのは、そこにまだ差別があることを示しているのです。

## 在日コリアンの参政権

日本籍コリアンは参政権がありますが、外国籍市民であるコリアンには今、参政権はありません。しかし、植民地支配の時代には日本国籍にされていたので、参政権がありました。県会議員や村会議員になった人もいます。日本の敗戦後サンフランシスコ平和条約が発効した昭和二七(一九五二)年に「日本国籍を剥奪」されるまでは法的には日本国籍だったので、基本的には参政権はあったはずですが、しかし昭和二(一九四六)年、はじめて女性参政権が認められた第一回総選挙のとき法的に日本国籍でありながら選挙法の付則によって「参政権を停止」させられました。

在日コリアンは納税の義務を果たしているばかりでなく、政党助成法により政党の政治活動に支出される交付金(一人二五〇円)も負担しているのです。イギリスの植民地であったアメリカが独立戦争で独立したときのスローガンは「権利(代表)なければ納税なし」でした。その権利とは参政権なのです。納税の義務と参政権は一体のものであるはずなのに、それが在日コリアンに認められていない現実、国際的にも日本における定住外国人の人権問題として、国連も関心を示しています。

いま大阪でも、定住外国人の参政権を認めるよう、国に裁判の形で訴えています。裁判のなゆきが、注目されています。

## 「外国人登録」制度

植民地時代朝鮮人は、日本国籍を持たされていたのですが、その根拠となった法律は朝鮮総督府の「朝鮮戸籍令」(当時「外地戸籍」と呼ばれていた)によっていました。当時「内地人」と呼ばれていたいわゆる日本人は、日本の「戸籍法」によって国籍が決められていたのです。つまり、同じ日本国籍といっても根拠になる法律が違っていたのです。日本の敗戦後、法的には日本国籍であったのに、昭和二(一九四六)年の総選挙では、『戸籍法』の適用がないとして、選挙権を停止され、『日本国憲法』公布の前日、『大日本帝国憲法』のもので最後の勅令である「外国人登録令」によって、法的には日本国籍でありながら、「朝鮮人はこの勅令の適用については、当分の間、これを外国人と見なす」として管理の対象となり、「外国人登録証」を持たされました。やがてサンフランシスコ平和条約が発効すると、法的に持っていた日本国籍を一方的に剥奪されました。むりやり日本国籍を持たされたときも、むりやり剥奪されたときも、国籍選択権は与えられなかったのです。サンフランシスコ平和条約以後「外国人登録令」は「外国人登録法」となり、現在に至っています。「外国人登録」は日本国籍者の「住民登録」に当たるものです。「外国人登録済み証明書」を「住民票」と同等に扱わなければなりません。

## 日常生活の差別実態

学校生活では、特に本名通学している子どもキム君が、「キムチ、キムチ」とはやされるなど、名前もじりのいじめにあったり、「韓国帰れ」などの罵声をあびせられたりする事件があります。「本名」を名のることに勇氣と決断が必要な日本の現代社会で、その子を自然に迎え入れる人間性と教育環境がほしいものです。

**就職差別**は、入社試験を受けさせない差別(国籍条項)、受験させても他の理由で不合格にその結果をだれにも知らせない差別、入社した社員に日本名(通称名)を強要する差別があります。また、社内の同僚が外国籍であることをあばきたるという差別もあります。「職業安定法」(第三条)では国籍を理由に差別的取り扱いをしてはならないことを明記しています。

**入居差別**は、外国人であることを理由に賃貸契約を拒否することです。在日韓国籍であることを理由にマンションの入居を拒否された裴健一さんが訴えたことに対して、平成五(一九九三)年大阪地方裁判所は、入居拒否は合理的理由がない、として裴健一さん勝訴の判決を下しました。行政もそのようなことがないように、積極的に業界を指導しています。

**年金差別**とは、最初日本国籍者しか加入できなかった国民年金に、昭和五七(一九八二)年から在日コリアンも加入対象者とされたのですが、そのとき三五歳以上の人は国民年金に加入でき

## 戦後補償について

陸軍志願兵制度、海軍志願兵制度を経て植民地朝鮮にも徴兵制度が実施されました。戦後B級戦犯として、軍事裁判で有罪判決を受け、二三人が処刑されています。戦地に徴用され戦死したり、負傷した人もいます。日本人の場合は「戦没者、戦傷病者、遺族等援護法」によって年金や遺族年金の支給があります。ところがコリアンの場合、戦没、処刑、戦傷病、のときには「日本国籍」だったけれども、「援護法」が成立したときは日本国籍(剥奪された)でなかったことを理由に支給されていません。また、軍需工場などに徴用された人の未払い賃金もあります。それらのことを、謝罪したうえで、補償することを求めているのが戦後補償問題なのです。

## 歴史認識の誤りコリアン

たとえば、今の韓国の首都はソウルですが、それは植民地支配の時代には「京城」と呼ばれていました。でも日本が韓国を併合する前は、「漢

## 在日コリアンとコリアン名称について

城(ハンソン)といました。つまり漢城という首都の名前を、併合と同時に京城と変えさせたのです。いわば、都市名に対する創氏改名といえます。日本敗戦後、初代のソウル市長が最初にした仕事は、京城をソウルに変えることでした。このような経緯を考えずに、「京城と漢字で書いてソウルと発音する」と思っている人が多いのです。日本が名称を変更した歴史的背景が理解できていないのです。「歴史認識が浅い」といえるのではないしょうか。社会全体が正しい歴史認識を持てるように努力することが大切です。

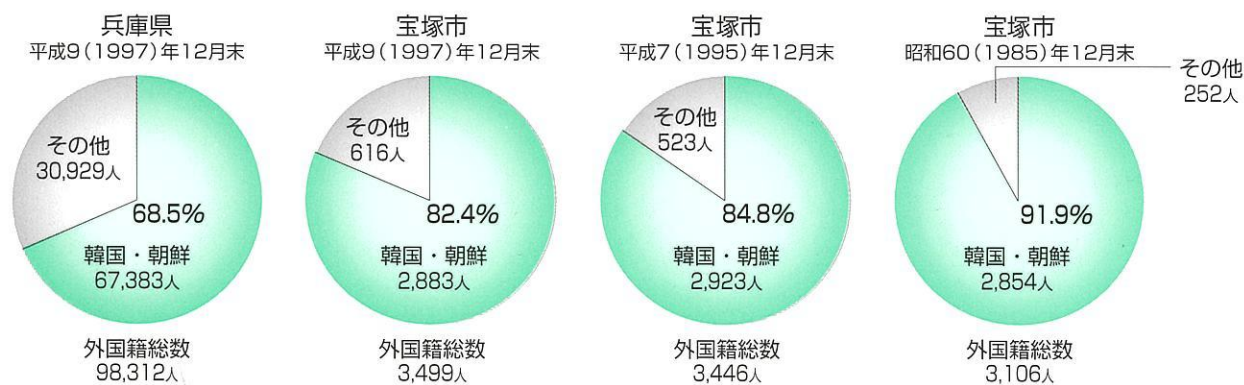
これまでは、在日韓国・朝鮮人という表現は、今でも一般的に使われています。在日外国人は「外国人登録証」を持たされていますが、その「国籍等」という欄に在日コリアンの場合には「韓国」もしくは「朝鮮」と記されています。在日韓国・朝鮮人という、ふつう外国人登録証を持っている定住外国人を指すことになりました。ところが、国籍法が改正された現在、両親のいずれかが日本国籍者である子どもや、「帰化」などの手続きで日本国籍を取得したコリアンもいます。それらの日本籍コリアンも包括して「在日コリアン」として扱われます。最近では新聞などでもこの表現が多く用いられるようになってきました。

## 共に生きる社会

### 宝

塚市の外国人市民のなかで、韓国・朝鮮籍市民の占める割合は、平成9（1997）年12月末現在図のように82.4%です。兵庫県のなかでは、68.5%ですから、宝塚市の場合かなり多いといえます。これは、この冊子で紹介したように、歴史的なかわりがあるからです。その人たちが、宝塚市の外国人市民として日本人市民と「共に豊かに生きる」社会を実現するのが、「内なる国際化」とでもいべき基本的なことからであるといえます。

◆外国人市民の中の韓国・朝鮮籍市民の割合◆



### 宝

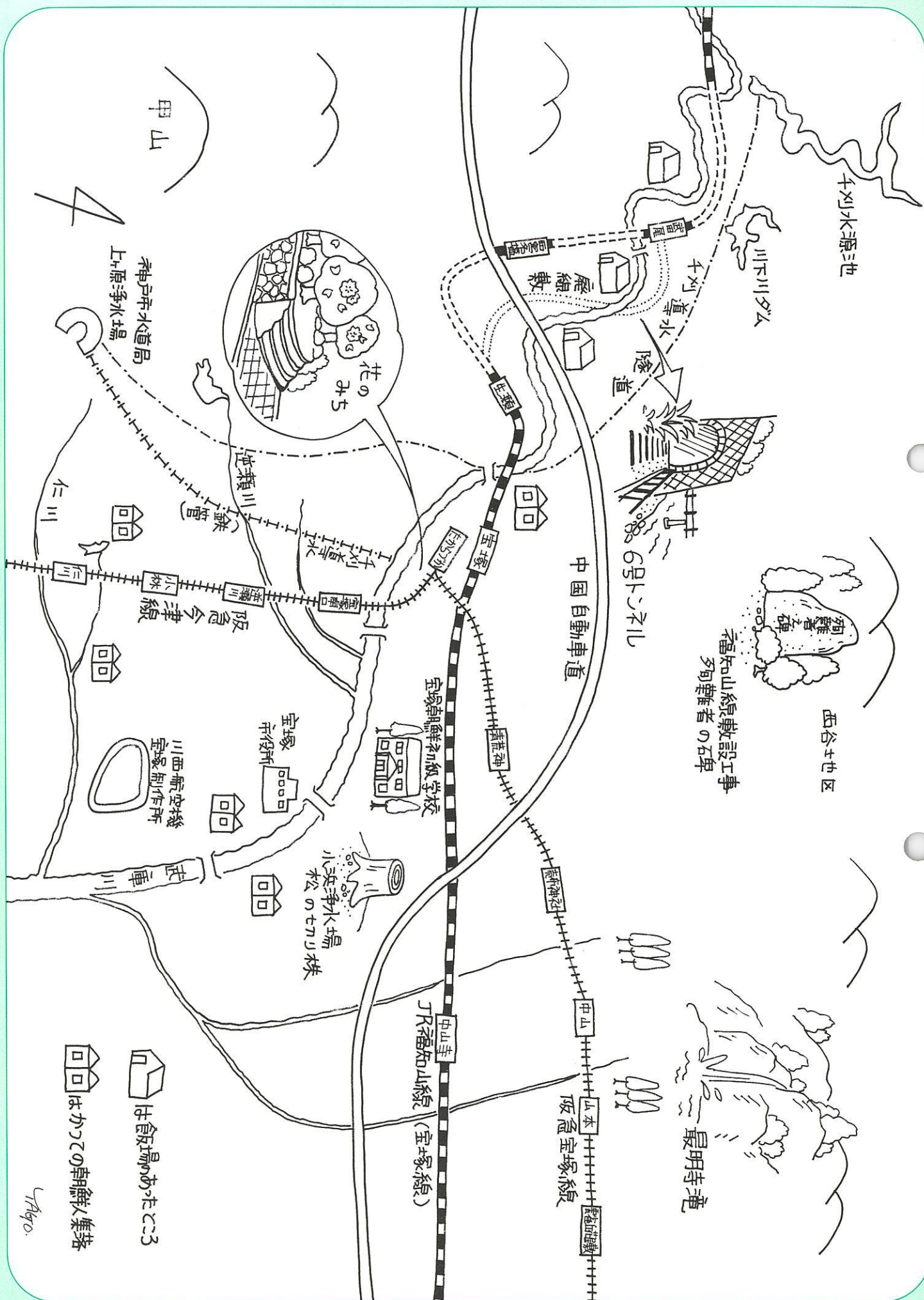
塚市の外国人市民を国籍別にみると、韓国・朝鮮籍2,883人、中国籍256人、ブラジル籍72人、アメリカ籍74人、カナダ籍44人、フィリピン籍30人、イギリス籍20人、オーストラリア籍19人、ペルー籍22人、インド籍14人、その他（33国籍）65人となっています。

韓国・朝鮮籍数はあまりかわらないのに、昭和60（1985）年の宝塚市の外国人市民に占める韓国・朝鮮籍市民の割合は、韓国・朝鮮籍が91.9%、平成7（1995）年では84.8%となったことから、それ以外の外国人市民が、年々増加していることがわかります。これらの外国人のほとんどは、新たに渡日されたのですが、母国の文化や民族の文化に誇りをもちながら、外国人市民として宝塚市で「共に豊かに生きる」ことができるよう支え合うことが大切だと思われます。

### 宝

塚市は、国際観光都市です。海外からの観光客も多く、韓国から「歌劇」鑑賞に来られる人も多いようです。宝塚歌劇団には、かつて朝鮮出身の白星子、白春子姉妹が大正15（1926）年に入団していたこともあり、今後国際観光都市として、さらなる発展を目指しています。

<この冊子の編集には、辻本久夫さん、近藤富男さんほか、多くの市民の方がたや外国人市民のご協力を得ました。>





## 人権尊重都市宣言

すべての人びとの基本的な人権が尊重され、平和で、自由で、平等な社会で、幸せに暮らせることは人類共通の願いです。

しかし、私たちの身のまわりには、今なお、さまざまな差別や人権侵害があとをたちません。

人が人として互いに尊び合い、すべての人びとの人権が保障される、明るく住みよい地域社会を築きあげるために、より積極的な取り組みが求められています。

人権は、市民一人ひとりの不断の努力によって守り、築かれなければなりません。

水と緑とふれあい・共生のまちをめざす、私たちのまち宝塚市は、ここに思いを新たにして、本市を「人権尊重都市」とすることを宣言します。

平成8年3月5日

宝塚市

ウリコちゃん  
**우리고장** たからづか

平成13(2001)年6月増刷  
宝塚市市民部  
〒665-8665  
兵庫県宝塚市東洋町1-1  
TEL.0797-71-1141(代表)

企画・協力  
社団法人 大阪国際理解教育研究センター